

# 千刈狸の呟き

～ ふうらんすへ行きたしと思へども ～

アナログ狸

最近ではコロナ関係の殺伐した話題ばかりで、気が滅入ることが多い。日本国内ばかりとはいえ、感染も少しは終息してきたので、県内限定の近場とはいえ、1泊で旅に出てみた。

最初の日には雨が降る中、前途多難な出発だったが、時折雲の隙間より日が差すので、紅葉をバックに見事な虹との共演を鑑賞することと相成った。今年は10月まで暑い日が続き、11月直前に突然冷えたので紅葉も時期が遅れ、しかも一斉に見事な様子を魅せることとなった。雨交じりの暗い曇天では、深く沈んだ様々なグレーの色調なのに、陽光が当たると見事な赤や黄色の原色の乱舞となる。その前に七色の虹がかかると、色彩の魔術師と呼ばれた二人の画家、ドラクロワの絵からマティスの絵に移り変わっていくような感覚を覚えた。

近場なので、よく行く法体の滝も見事な紅葉に囲まれていれば、趣の違った様相を見せる。途中の百宅部落が鳥海ダムの工事中なので、大型ダンプ中心の喧騒に包まれているが、法体の滝まで行けば、今は観光客も多くはないので、割と静かなものだ。鳥海ダムができれば、百宅部落はダム湖の底に沈むが、わずか37世帯しかなかった地元では反対意見はあまりなかったと言う。鷹巣空港同様、代替農地を与えられても、離農する人が多く出るだろう。先祖伝来で手間のかかった農地ならば、そのまま農業するだろうが、単にブルドーザーで開いただけのところでは、まともに収穫できるまで、どのくらいの手間や月日がかかるか計り知れない。高齢者が多いとなれば、離農するのは当然と言える。地球温暖化が進む中、自然環境はできるだけ保護した方が良いが、地元の事情も考えずに、ヒステリックに叫ぶのも考えものだ。不謹慎かもしれないが、アナログ狸はダム周辺の舗装路が増えて、玉田溪谷方面に車で楽に行けるようにならないかな？とか、ダム湖で水質が改善されて湖沼型のアメマスが釣れるようにならないかな？とか、しか考えていない(すみません)。釣りキチ三平の映画のロケ地なのに、鳥海山の噴火のあと、下玉田川から酸性水が流れ込むので、法体の滝にはオオイワナどころか、魚が住めないの、今は詐欺同然の状態である。ダム湖で水を貯

めて水質改善すれば、ダム湖やダム下流が豊かな流れにならないかと期待している。毎年のように下玉田川本流に魚が戻ってきてはいないかを確認しに行くアナログ狸であった。

コロナ以降は温泉ともご無沙汰だったので、泊りで温泉を堪能した後、さらなる紅葉を目指して小安峡に向かった。平日とはいえ小安峡には観光客がそれなりにいたのだが、例年に比べれば相当少ないと思う。紅葉はピークを迎えており、天気も良かったことから、見事の一言に尽きる。橋の上から見るのも一興だが、階段を下りてはるか下の溪谷に降りて、脇から温泉が噴き出す大噴湯を見に行ってみた。紅葉も温泉の噴出も見事だが、その少し上流の水の中に小さなイワナの群れをみてしまうのが、アナログ狸らしいといえる。偏光サンングラスなしでもすぐに見つかったのだが、水の中の魚を見慣れない家人には、なかなか見つからなかった。

その帰りはかなりの階段を上る。溪流シーズンとなれば、週に1回は沢に入り、遡行して、道なき斜面を林道まで上がってくるアナログ狸であるが、その階段で息が上がり、呼吸が荒くなる。途中で気が付いたが、しっかりとマスクをしていた。これは苦しくなるわけだ。中国ではマスクをしたまま運動して、死者まで出ていたが、ちゃんとしたマスクをして急な階段を上るとかなり苦しい。沢に行くときは自分以外の人間はほとんどいないので、マスクはしていない。コロナのせいで死にかけてアナログ狸であった。

近場で短いと言いながら、旅に出るのは爽快であった。早く、何の制限もなく、気ままな旅に出られないものか？結局、コロナ関連話になってしまい、またも気が滅入るアナログ狸であった。